

2018

3

長崎県

長崎県の“土木”のいまがわかります

NO. 34

DOVOC 通信 ながさき

特集
1

ながさき建設女子ネットワーク 愛称決定 “よりより”

特集
2

防災情報を地図で確認

「現場百景」 DOVOC インフォメーション



“よりより” 愛称決定



【ロゴマークコンセプト】
女性技術者が「寄ってきて」「より良い仕事ができるよう、長崎伝統菓子である「よりより」をイメージした円形の中に、女性技術者を配置。また、色は女性らしいイメージから、濃いピンクを採用。

平成29年度に女性建設技術者・技能者の親睦を深めるため、長崎、佐世保、諫早の3地区にて交流会を開催しました。

長崎地区交流会(11月20日開催)

参加者35名のもと、第1部の現場見学会では、西彼杵道路時津工区(仮称:久留里トンネル)と赤迫地区急傾斜地崩壊対策工事を見学しました。

トンネル現場では、「ドリルジャンボ」によるトンネルの掘削状況を見ることができ、実際に重機にも試乗させていただきました。

急傾斜地事業では、主任技術者(請負者)と監督員(発注者)ともに女性からの説明に参加者も共感を受けました。

第2部の意見交換会では、長崎新聞文化ホールにて、“よりより”の今後の取り組みなどをワークショップ形式で話し合いました。



ドリルジャンボに試乗

久留里トンネル見学

赤迫地区急傾斜見学

意見交換会後に記念撮影

佐世保地区交流会(1月29日開催)

参加者36名のもと、第1部の現場見学会では、佐々鹿町江迎線道路改良工事(志方黒石工区)を見学しました。

当工事が河川内の作業となることから仮設締切に多額の費用を要すること。

また、軟弱地盤であることから、地盤改良を必要とすることなどの説明を受けました。

第2部の意見交換会では、セントラルホテル佐世保にて、女性の建設業への入職促進・定着に向けた取り組みなどをワークショップ形式で話し合いました。



横引き工法説明(志方黒石工区)

仮設締切矢板説明(志方黒石工区)

概要説明(志方黒石工区)

意見交換会後に記念撮影

諫早地区交流会(2月26日開催)

参加者22名のもと、第1部の現場見学会では、長崎河川国道事務所の協力により、半造川河川改修工事を見学しました。

当事業は引堤に伴う島原鉄道の架け替え工事が必要となることから、河川改修工事と合わせて説明を受けました。

第2部の意見交換会では、L&Lホテルセンリュウにて、参加者の石田さん(長崎河川国道事務所)より本明川ダム概要の説明を受けた後、女性の建設業への入職促進・定着に向けた取り組みなどをワークショップ形式で話し合いました。



半造川現場説明(国交省による)

本明川ダム概要説明(国交省による)

島原鉄道架け替え状況

意見交換会後に記念撮影

自然災害
公共施設の老朽化



人口減少
“少子高齢化”

建設業の将来は…



女性のパワーで建設業界を元気にしたい!



人手不足が現実となりつつある昨今、男社会であった建設業に女性活用の機運が高まっています。

女性が働きやすい建設業を目指し、産・学・官の各分野から選ばれた「女性活躍推進検討WG」13名が中心となり、いろいろな意見を出し合って、今後の活動などを検討しています。

その検討の結果、県内女性建設技術者・技能者234名の拠り所となる組織「ながさき建設女子ネットワーク」が誕生しました。

まだ少数派であっても、ネットワークを生かし、よりあって、建設業活性化を目指すため、長崎を代表するお菓子のよりよりのような存在でありたいと願いを込めて、愛称を“よりより”に決定しました。

女性WGの役割

- “よりより”の活動拡大のため、提案・助言
- 課題解決のため、他機関との連携



“よりより”の今後の活動

- 現場見学会を増やす
- 女性技術者の体験講話
- 女性に合った機能とデザインをもつ作業服の推奨
- よりよりロゴマークシールの配布

入職促進・定着に向け産学官で取り組む課題

- トイレ・更衣室・休憩室の整備
- 福利厚生の充実
- 高校生・大学生向けの職場体験機会の増設
- 経営者や周囲の男性の意識改革
- 再雇用システムの確立

問い合わせ先

長崎県土木部建設企画課

〒850-8570 長崎市尾上町3-1
Tel. 095-894-3021(直通)
Tel. 095-824-1111(内線3021)

現場百景



潜水士は測量の手伝い、海中、海上の溶接をしていた。



多くのカモメが現場に「落し物」をしていた。作業も大変だ。



水揚げされた魚をさばく市場の方々。



杭の位置を正確に計測する作業員。工事の肝でもある。

全国有数のアジ・サバ水揚げを誇る松浦魚市場のある調川港ですが、まき網船の大型化や、大中型まき網船と小型まき網船の競合により係留スペースが不足しています。調川港港整備交付金事業では、浮棧橋2基および泊地を整備することで、水揚げ機能を向上させ水産業の振興を図ります。



調川港港整備交付金工事
工事概要
浮棧橋1基(据付工事)
寸法:長さ70m×幅25m

調川港浮棧橋据付工事

少し春めいた2月下旬、松浦市の調川港にある魚市場を訪れた。この魚市場はアジ・サバなど青魚の取扱量が全国トップクラスで、県内の重要な水産拠点でもある。しかし、開場から40年近く経ち、市場が老朽化していることに加え、着岸するまき網船が大型化しているため、新しく陸揚げする施設が必要となった。そこでこの度2基の浮棧橋が新設されることになり、その一基目の工事を見てきたのだ。

現場には近くで水揚げされた魚の「おこぼれ」を貰おうとカモメが近くを飛び交っていた。現地工事は1月30日から開始。まだ一ヶ月も経っていないが、すでに係留杭は設置されており、この日は杭の測量や海中での溶接が行われていた。そして、3月中旬には完成するのだという。

現地工事は実に2ヶ月。実作業が短く、港を長期間専有することなく速やかに施工できるのが浮棧橋工事の特徴だ。ただ、作業は海上もしくは海中で行うため、波や風の影響をどうしても受けてしまう。しかし、工事に誤差があると浮棧橋はうまく機能しない。この現場ではプラスマイナス数センチメートルの精度を求められており、そのため何度も何度も測量しながら誤差のないよう仕上げるそうだ。短期間の工事だけに、作業する方々の技術や連携力があってこそ成し遂げられるのだろう。

この港は、新しい浮棧橋を皮切りに段階的に市場全体の改修を進め、より活きいい魚をさらに多く国内外に届けていくとのこと。今後、長崎のおいしい魚が全国で食べられる機会はさらに増えるだろう。



小島健一
「見学家」土木工事現場、産業遺産や工場などを、紹介用に「エッセイ」や書籍などで紹介。2011年10月から3年間、長崎の離島「池島」で地域おこしを行い、長崎大学の研究員を経て、現在は鹿児島の人來麓武家屋敷群で地域振興の芽を探している。著書に「社会科見学に行こうー」、「ニッポン地下観光ガイド」などがある。

防災情報を 地図で確認

長崎県は斜面が多く平地が少ないため、居住区域と自然斜面が隣接し、土砂災害の発生により被害を受けやすい地域が多く存在しています。そのため、被害を軽減するための工事を行うハード対策と併せてハザードマップ作成などのソフト対策を進めています。

1 土砂災害に備えよう

1-① 砂防ダムや地すべり対策、斜面对策で土砂災害を防ぐ

県内には土砂災害危険箇所が16,231箇所あり、全国9位の多さです。大雨などによって引き起こされる土石流や地すべり、がけ崩れは人命や暮らしに大きな被害を及ぼします。そのため、土石流を防ぐ砂防ダム、がけ崩れ防止のための斜面对策など、その土地の特性や危険性に応じたハード対策を進めています。

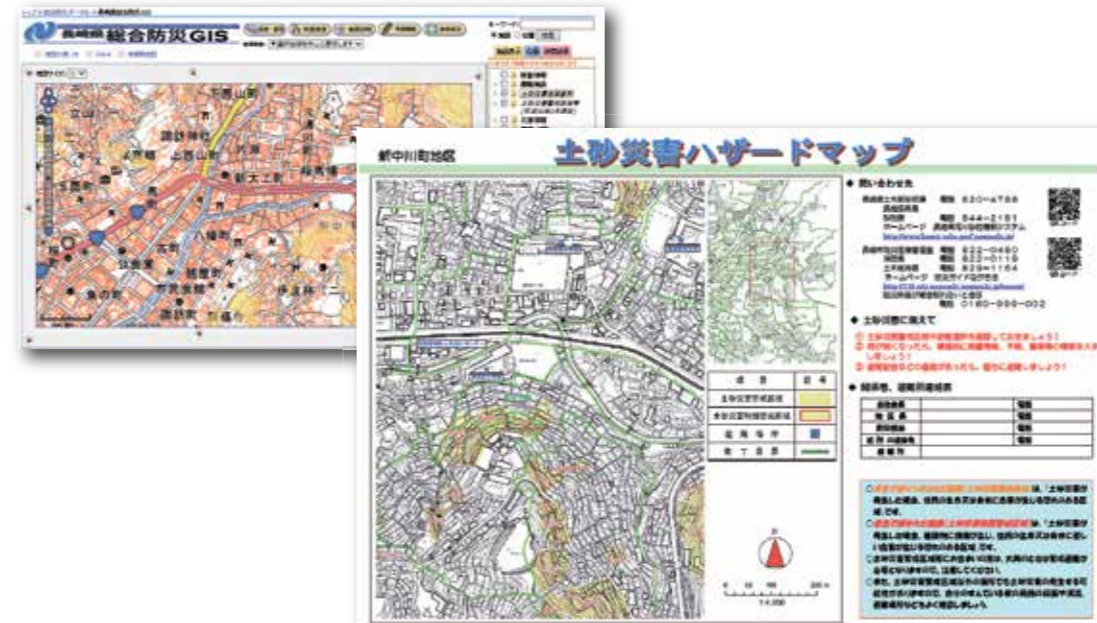
また、ソフト対策として、県民の皆様の避難行動につなげるための警戒避難体制の整備、一定の開発行為の制限、建築物の構造規制を目的とした土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域等の指定や県と气象台で共同発表される「土砂災害警戒情報」の周知等に取り組んでいます。



1-② 土砂災害ハザードマップ

県では、土砂災害の恐れがある地域を調査し、危険の度合いに応じて警戒区域（イエローゾーン）や特別警戒区域（レッドゾーン）を指定し、「長崎県総合防災GIS」などで公開しています。

また、警戒区域等が指定された市町は、「ハザードマップ」という被害を受ける恐れのある範囲や避難場所などを示した地図を作成しています。「ハザードマップ」は、お住まいの市町のホームページや窓口、長崎県土木部砂防課のホームページ→「土砂災害ハザードマップ」で見ることができます。



1-③ 避難判断のタイミング

県と气象台は大雨により土砂災害の危険性が高まっていると判断した場合は、「土砂災害警戒情報」を発表します。これは、市町がおこなう避難勧告などの防災活動や県民の皆さんが自主避難を判断するための材料の一つとして提供されているものです。

土砂災害警戒情報メール配信システム

お住まいの地区で土砂災害の危険性が高まったとき発表される『土砂災害警戒情報』をご希望の方へ電子メールで配信しています。事前登録が必要です。二次元コードまたは下記アドレスに空メールを送信のうえ設定してください。

bousai.nagasaki-pref@raidan.ktaiwork.jp

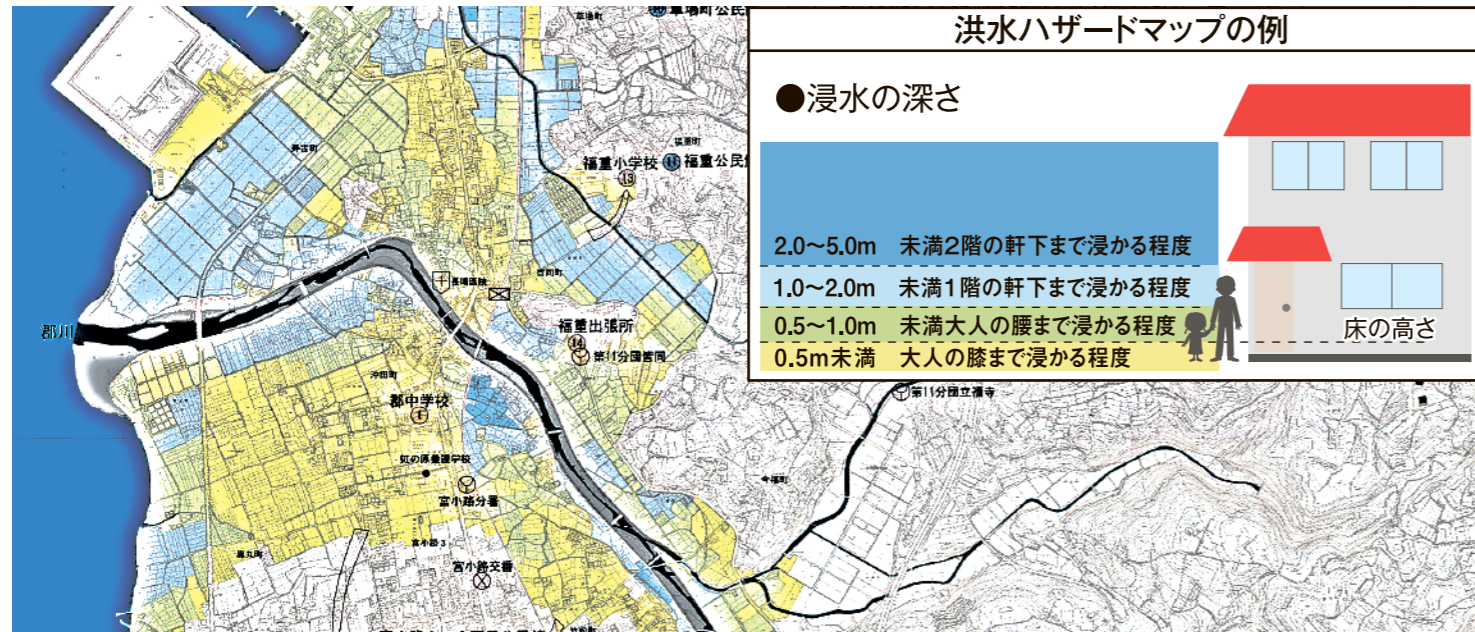


2 洪水に備えよう

2-① 洪水ハザードマップ

市町では、県が作成した各河川の浸水想定区域図に基づき「洪水ハザードマップ」が作成されており、現在14河川について整備されています。

しかし、近年の「ゲリラ豪雨」等により想定を超える浸水被害が多発していることから、現在、浸水想定区域図の見直しを行っており、「ゲリラ豪雨」等を想定したハザードマップを作成中です。



2-② ハザードマップを利用して地域や家族で災害時の行動を確認

住んでいる地域の危険箇所や避難場所、緊急時の連絡先などの確認、地域の避難訓練への積極的な参加など、防災意識を高めることも重要です。



2つの市街地再開発事業が動き出しました



諫早市の栄町東西街区市街地再開発事業で、1月11日に建築本体工事の起工式が行われました。平成30年度の完成を目指しています。

また、長崎市では新大工町地区市街地再開発事業が認可を受け、2月1日に再開発組合が設立されました。今後詳細な設計等を行い、平成33年度の竣工を予定しています。



百花台公園竣工記念植樹

昭和55年度から38年間整備してきた県立百花台公園(島原市・雲仙市)の竣工を記念して、平成29年12月に竣工記念行事を開催しました。子どもたちによるミヤマキリシマの記念植樹や少年サッカー大会などで賑わいました。

37ダムのダムカードを配布しています

ダムのことを広く知っていただくために、県では平成26年からダムカードを配布していますが、今回新たに22ダムのダムカードを作成しました。県が管理する国土交通省所管の治水ダム数は日本一の35ダムであり、建設中の2ダムとあわせて、37ダムのダムカードを配布しています。

また、長崎市にある本河内低部ダム、本河内高部ダムは明治時代に建設されたダムであり、歴史的価値が認められ、平成29年7月に国の重要文化財に指定されました。これを記念して限定でプレミアムダムカードを配布しています。

ダムカード・プレミアムダムカードの入手方法は



長崎県 ダムカード

検索

県内の土木・建築に関する情報を発信しています! <http://www.doboku.pref.nagasaki.jp/ichimannin/top.html>

「1万人、土木・建築体験プロジェクト」ホームページ

県内の土木・建築に関するイベント情報を発信しています。

facebookページ『よかばい!長崎の土木』

1万人 土木

検索

よかばい 土木

検索

「DOVOC通信ながさき」では、読者の皆様からのご質問・ご感想をお待ちしています。

宛先◎〒850-8570 長崎県土木部建設企画課 ☎095-894-3021 FAX095-894-3461 ✉s08080@pref.nagasaki.lg.jp